

りょうぜん天蚕の会だより

【第 14 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 菅野秀一（電話・FAX 024-586-3030）

【 当会の活動方針 】 霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進する。また、会員一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行う。

春暖の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度14年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と設立以来、伊達市、伊達市観光物産協会、大日本蚕糸会、福島県関係機関等のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

29年度は梅雨に晴れの高温の日が続き、夏には台風がたびたび到来し長雨の天候不順で当会の作業は苦労の連続でした。昨年同様の10,000個を山付けとエゾノキヌヤナギの生育も良好だったため約7,700粒を収穫できました。天蚕製品については「ふるさと納税の返礼品」が全国から注文が相次ぐとともに、新製品の試作に努めました。特筆すべきは3月10日に開通した東北中央道の霊山ICに隣接して整備される道の駅「伊達の郷りょうぜん」には当会の展示スペースが設けられることになりました。訪れる皆様に天蚕の魅力を紹介するとともに、30年度はさらなる発展を目指し努力したいと思います。皆様のご支援ご協力をお願いいたします。（会長 菅野秀一）

繭収穫選別作業 29年7月9日 中川集落センター



平成 29 年度総会開催

3月4日(土) 午後3時より霊山町中川集落センターにおいて会員25名の参加のもと第13回総会が開催された。菅野会長の挨拶に引き続き伊達市霊山総合支所橋内支所長の来賓祝辞があった。会長が議長を務め28年度事業報告、一般会計報告並びに29年度事業計画、予算案が全員賛成のもと承認された。

総会に先立ち午後1時から全員で天蚕卵の袋詰めを行い春期の山付け作業の準備を整えた。総会後は郷土料理に舌鼓を打ち今年度の更なる繭生産増に向けて大いに語り合った。



総会の様子 中川集落センター

飼育樹の剪定作業

18日(土) 館ハウスにおいて16人の会員が参加しエゾノキヌヤナギの剪定作業を行い山付けの準備を整えた。



剪定作業 (エゾノキヌヤナギ)



クヌギ枝の運び出し (大友靖子会員)



私だって力あんのよ! (柳沼ノブ子会員)

天蚕山付け、ハウスネット掛けを実施

4月23日(日) 朝8時半より会員20名による山付け作業とハウスのネット掛け作業を実施した。女性会員は2人1組となり、飼育樹木(エゾノキヌヤナギ)に10卵入りネット袋1千枚をホッチキスで止めた。男性会員はハウス全棟のネットを午前中に掛け終えた。



山付けの天女の皆さん (左から川辺さん, 佐藤さん, 生駒さん, 八島さん, 丹治さん)



ネット掛けが済んだハウス

会長宅で反省会

作業終了後、ハウスに隣接する会長宅で反省会を行った。

会長宅は明治21年建築(築後130年)の家屋で、数度リホームされている。一同見学とともに山付けを祝う反省会となった。



今日は、はがいってよかったなー。



あー満腹ー。そしてお茶タイム。

県農業総合センター研究員が害虫捕獲に来訪

5月21日(日)福島県農業総合センター果樹研究所の荒川病虫害科長(農学博士)他2名が館ハウスの害虫捕獲に訪れた。試験場のリンゴ、ナシ等の木に放ち、樹木への影響と農薬の効果等を研究するためとのこと。1時間ほどでマイマイガ約800匹を捕獲し専用ケースに保管した。



菅野研究員 荒川科長 吉田副主任研究員



捕獲したマイマイガの幼虫

孵化して間もないころは「刺す」ことがあるが、蛹(さなぎ)になるまでのほとんどの期間は刺さない虫だという。体全体の毛は針状なので素手では「刺さる」感じはするが刺さっても影響はないとのこと。ただし、背中に4つの黄色の斑点があるこの幼虫(毒蛾類の一種)は「刺す」とのことで、刺された部分は2～3日「カユミを伴いカブれる」ことがあるとのこと。素手、素肌での作業は注意したい。



マイマイガの幼虫



毒蛾の一種

害虫の生態を知ろう。(目をそらさずにご覧ください)

毎年発生する「マイマイガ」の生態を知るべく時々記録した写真を紹介します。

1. マイマイガの巣(写真1)である。樹木の下部(地面近く)に薄茶色の綿を固めたような物がついている。この中に数百匹分の卵があるという。発見したら孵化する前の早春にヘラのようなもので「そぎ落とす」。落ちた巣は地面のバクテリアに捕食されるので放置して良いとのこと。

2. 成長した幼虫(写真2)である。根元で見分けが付かないが数匹群がっている。解るかな。蛹になるころの物であろうか5cmほどである。

天蚕の山付け以降は殺虫剤等の散布は出来ないので人海戦術で駆除することになる(駆除の様子は本誌第12号で紹介済み)。繭収穫後から山付け前までに殺虫剤等の散布が重要である。



(写真1) マイマイガの巣



(写真2) 成長した幼虫

霊山こどもの村で天蚕工芸品づくり

6月18日(日) 霊山こどもの村において天蚕繭・家蚕繭を利用した「工芸品づくり」の指導を川辺、大友、島貫、八島の4名が行った。
 先ず八島事務局長より天蚕の特性と飼育法を植木鉢のエゾノキヌヤナギにつけた本物を見せながら説明した。家蚕は営繭の時、永久糸になるよう8の字に首を回して吐糸するのに対して、天蚕の営繭は縦横に吐く為に解舒が難しいと説明した。その後、参加者銘々が自分の作品に取り組み、様々な工芸品づくりを楽しんだ。



こどもの村で天蚕工芸品づくりの指導の様子

天蚕繭の収穫作業

7月9日(日) 午前9時半より今年度繭の収穫作業を会員21名が参加しておこなった。梅雨に晴れの高温の日が続き、夏には台風がたびたび到来し長雨の天候不順で作業は苦労の連続でしたが全体で約5,000個を超す収穫が得られた。その後初秋蚕の収穫も例年以上で7,500個の収量となった。伊達市の地域づくり支援金の増額によるハウスネットの更新が大きな要因である。



収穫作業中の義治さん、健治郎さん、長谷川さん



収穫した天蚕繭



天蚕繭の選別と計数

天蚕まつりを開催 (P. 5に特集)

9月30日(土)と翌1日(日)に阿武隈急行保原駅で開催された天蚕まつりに多くの方が訪れた。特に山形県白鷹町天蚕の会員守谷様が訪れてくれて交流会後の再会が叶った。守谷さんは、白鷹町と異なり当会はアクセサリを初め、会員達が生産した紬やハイブリッド・ショールや和装用小物が多く展示・販売され、会員達に付加価値を与えていることに関心を寄せていた。
 「コサージュづくり」体験は殊に好評であり、体験者は繭セットを2～3個求めている。また、伊達市ふるさと納税返礼品として展示したハンドバッグやショールに訪れた人たちは手に取って



←福島民報 10月1日

眺めていた。天蚕まつりに際し、限定品として繭を利用した「夫婦人形」と「お地蔵様」を製作販売したところ「可愛い」と在庫品無くなる程でした。また、管野真由美会員の娘さんのまひろさんが製作した「天蚕茶」を来場者に配ったところ大好評でした。また、まひろさんの夏休みの自由研究の展示は大人顔負けの連続研究の成果発表で訪問者を驚かせていました。(別稿あり)

特集 天蚕まつり ～「阿武急フリーの日」保原駅構内に大勢の来客～

10月3日ごろの土日に「天蚕（テン・サ）」にちなみ、阿武隈急行保原駅コミュニティーセンターにおいて天蚕の会と伊達市観光物産交流協会との共催で「天蚕まつり」を開催している。

阿武隈急行線の毎月第一日曜日の「阿武隈急行フリー乗車の日」と重ねて開催。「コサージづくり」「天蚕紬」「機織体験」がすっかり定着して毎回大勢の乗降客で賑わっている。



ショール・ハンドバッグ・ネックレス・ブローチ・ネクタイピン等の展示商品

2階のメイン会場の様子



クスギを食中の天蚕幼虫に見入る来客(中)

天蚕糸の紬方法を説明する会員と聞き入る来客

コサージ作りを来客に指導



駅舎2階のメイン会場での受付スタッフと会場の様子

1階ロビーのコサージ作りの来客の様子

伊達市観光物産交流協会 を紹介します。

阿武隈急行保原駅の1階に伊達市の特産品を集めた売店と観光案内所があり、伊達市だけでなく、福島市、二本松市、川俣町など近隣市町村の観光パンフレット等も用意されています。

天蚕商品はロビー西側のショーウィンドーに展示され販売されています。天蚕の会には多大なるご協力をいただいております。



執務室の寺島峰子さんと穴戸美瑚さん。



天蚕の会の展示商品を説明する穴戸さん。

白鷹町天蚕の会と交流会

9月2(土)～3(日)の2日間、山形県白鷹町天蚕の会より交流会の誘いがあり菅野会長他6名(八島夫妻、佐藤、八島時、安田、島貫)が参加した。

先ず白鷹町深山地区にある加藤会員の天蚕飼育圃場と採卵現況を見学した。次に今年度生産された繭の繰糸作業を須田会長の車庫で行われていた作業を見学。ストーブに懸けた鉄鍋で繭を煮て、13個の繭から繰糸器を専門に係る女性会員が糸とりをしていた。しょっちゅう切れる糸に対応し、次々と端糸を出しておいた別の繭を補充していた。4名の端糸を見つけ出す女性がいることは大変合理的な作業法と思われた。約20日掛けて繰糸作業を終了し、製鍊・糊付け作業専門店に渡し、その後機織屋さんにて布として上げると言う。織上げた布が何時売れるかは不透明なので会員に入金される時期も不安定だとか。当会が提供した卵から「黄繭」が多く見られたことから「初めて見た!」と驚いておられた。



クサノ園主の加藤さん(左から3人目)から説明を受けた。



須田会長宅で繰糸作業視察。端糸出し4名、13個の繭で繰糸1名。

その後、近隣女性4名がコサージュづくりを体験した。「のどか村」の庭に設定されたテーブルにて焼肉と生ビール&日本酒各種の大交流会が開かれた。それぞれの会長挨拶の他活動経過報告もなされ、深夜に及ぶ交流となった。

翌日は、深山地区にある光明海上人即身仏のある「蔵高院」や三乗院所縁の「瑞竜院庭園」を訪ねた。また、佐藤新一「白鷹紬工房」を訪ね米織伝統工芸の「板締め」の工具や絞織の説明を受け、その繊細な仕事ぶりに感銘した。今後こうした交流を通して天蚕への関心が深まることを期待したい。

霊山町の文化祭に協賛出品

10月28日(土)～29日(日)恒例の霊山町文化祭が開かれるに当たり当会作品の展示要請があった。ショール、ハンドバッグ、和装帯等を展示し八島事務局長が2日間説明に当たった。

自然界の淡い緑の繭に感嘆の声が多く聞かれた。来訪者の知る天蚕は殆どが「ウスタビカ」のことであり、「天蚕」から薄緑色の糸が採れることに驚いていた。



東京ふるさと霊山会で展示



製品の展示。左は「霊山コンベンション」右は「りょうぜん演」

11月11日(土)東京上野「紅天広」レストランにおいて「東京ふるさと霊山会」が開催され、菅野会長が昨年に引き続き参加しました。「ふるさと霊山会」は霊山町出身者で関東地域に居を構える方々に故郷の話題と特産物をお届けする機会として毎年この期に開かれている。

天蚕商品を手荷物程度持参して紹介した。特に、ハーフショールやハンドバックの高級感あふれる商品に関心が寄せられた。その後、参加者よりハーフショールを奥様の誕生プレゼントにしたいと注文を受けた。

ネット外し作業と納会を実施

11月25日(土)午前中、男子会員9名、女子会員6名が参加して冬にそなえてハウスのネット外し作業をおこなった。今年は春に8枚新しい大型ネットに更新したので片側に曳く簡易作業のため早く終わることが出来た。



ネット外し作業(左から義治さん、健治郎さん、善正さん、保雄さん)

また、天蚕種はメス蛾と卵を籠から取り出しそれぞれに番号を付けて検査の準備とした。斎藤行応部長と八島時男氏で200体のペアリングが行われ、来年度も今年以上に山付に備える見通しが出来た。作業後は、会員持ち寄りの生産物で「芋煮」を作り舌鼓を打った。

掛田小学校で生糸づくりと真綿づくりを指導

11月30日(木)午前中、掛田小学校3年生は春に飼育した蚕の繭を使用して生糸の繰糸と真綿づくりに挑戦した。会員の八島夫妻に講師の要請があり、生徒達に生糸と真綿づくりの方法を牛乳パックの手作り用具を用いて指導した。

まず、①繭の毛羽取り②煮繭③真綿挽き④生糸づくりを行ったが、1個の繭からふんわりとした真綿が出来たことや1個の繭から1,000m以上の糸が繰糸出来たことに感動していた。



生糸の繰糸と真綿づくりを学ぶ生徒たちの様子

母蛾検査を実施

1月28日(日)9時から中川集落センターにおいて会員16名が参加し母蛾検査を実施した。伝染性病原菌に冒されていないか優良種保存には欠かせない重要な作業である。



検視中の末永敏会員(奥)と八島時男会員 母蛾を検液により粉碎する作業

今年の試験献体は137体(昨年141体)。検査の結果1体において疑わしい物が発見された(全体の0.1%になる)。検査作業は順調であったが効率を上げるため機器材の充実が課題となった。

検液濃度 炭酸カルシウム 2.5g

精製水 500cc

検液水量 1蛾→15cc 2蛾→30cc

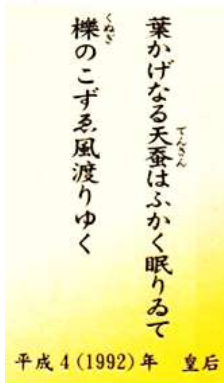
上保原小学校でコサージ作りを指導

2月27日(火)上保原小学校で6年生と父兄あわせて71名が参加し天蚕コサージ作りに挑戦した。当会からは川辺、大友、八島恭子の3名が指導に当たった。天蚕を知る方も数人いたが、親子共々緑色の繭のコサージには大いに感激したようである。小学生を通して父兄の皆さんが天蚕を知り、その魅力に魅かれて取り組む機会が年々増加していることは好ましい傾向である。



天蚕繭でコサージづくりを学ぶ生徒たちの様子

皇后さま 象徴のうた (平成という時代)



「天蚕」と呼ばれる蚕の卵をクヌギの木につけられる皇后さま。左は紅葉山御養蚕所主任だった故藤枝貴利さん＝2007年6月4日、皇居・紅葉山御養蚕所（宮内庁提供）

皇后さまには蚕の歌が多いが、掲出歌は、平成4年の歌会始で「風」というお題のもとに詠まれたもの。やはり、日本古来のものを残したいというお気持ちから、紅葉山では天蚕も育てられている。天蚕は桑ではなく、襟の葉を餌とするが、天蚕の卵を襟の枝につける作業は「山つけ」と呼ばれ、これも皇后さまのお仕事である。葉を食べる天蚕の首も絶え、その深い眠りを撫でるように風が渡っていく。印象深い一首である。一般にはあまり知られることのない皇居のうちの作業のなかに、日本古来の伝統が息づいている。

3月1日の福島民報、福島民友の各紙に掲載された「象徴のうた」に美智子皇后さまが平成4年の歌会始で詠まれた歌が紹介されました。「風」というお題のもとに「天蚕」が詠まれています。

天蚕「ふるさと納税返礼品」好評

29年度より伊達市ふるさと納税返礼品に選定され3月末にネットに乗ると直ちに注文があり納税者にハンドバッグを送付した。その後も、月平均1個の割合でショールとハーフショール、ハンドバッグ等送付している。

ふるさと納税返礼品の高額化が問題視されて納税の2割程度の返礼品と総務省は勧告したが返礼品目当ての納税者が多いことに相まって、還付金への関心も高まっている表れであろうか。

この期に、本を求めに全国の返礼品を閲覧してみたが大半が地域の果物や海産物、地酒とか飲食品が多く登録されており、工芸品の登録はこけしや陶器・漆製品等10%程度にとどまるなど少ない。「天蚕製品」の登録は当会が全国唯一であった。

伊達市返礼品カタログP.7(伊達市産業部商工観光課)より→



道の駅「伊達の郷りょうぜん」に天蚕展示コーナー



東北中央道の霊山ICに隣接し整備される道の駅「伊達の郷りょうぜん」は新たな伊達市の玄関口として市内外から多くの人々が訪れる広域交流拠点となります。

構想では、正面玄関を入った左側に当会の展示スペースが設けられることになりました。ショールやハンドバッグなど天蚕の会の自慢の製品を展示し、訪れるお客様に天蚕の魅力を紹介します。

←道の駅「伊達の郷りょうぜん」完成予想図

天蚕繭のラリエット・ネックレスが届く

京都西陣織物会館の光岡すず子さんと三春町玄侑さんの夫人が来訪された。その折、繭を少々差し上げたら「このような物作ってみました」と天蚕繭と家蚕繭を利用したラリエット（ネックレス）を2本送られてきた。

萌黄色の天蚕繭とビーズのシルバーが調和されて違和感がなく装飾され、大胆で面白い作品と思われた。コサージュづくりばかりでなくこのような自分だけのラリエットづくり講習会も良いと思われる。

光岡すず子さんからの便り→



三世紀遺跡から天蚕で作られた巾着出土

1月7日付朝日新聞に「たんぱく質で考古学」の記事を紹介します。「奈良県明日香村にある七世紀の牽牛子塚古墳から出土した豪華な棺を分析すると中国原産のカイコに由来する絹が使われていた。一方、三世紀ごろの奈良県桜井市の纏向遺跡から出た巾着型の布製品は、やはり絹だが日本在来種「ヤマユガ」だった。『養蚕の起源をめぐる中国一元説と世界多元説の論争に一石を投じる』と評価されている」という記事が掲載されました。

日本在来種天蚕は古代人にも魅力的な糸として利活用されていた証であります。この糸の魅力を伝えていかなければならない使命感を一層感じた次第である。



管野まひろさん3年連続受賞(準特選)



会員管野真由美さんの娘さんのまひろさん（保原小6年生）は昨年の「天蚕の生態」の自由研究に引き続き、今年は天蚕繭の製糸・紬繰糸に特化した研究に取り組み、写真・図解等詳しくまとめて提出、県小学校理科作品展「準特選」を受賞した。天蚕繭の解舒が難しい要因は何かと疑問をもち、様々な温度や時間差で煮繭し、紬繰糸作業を繰り返しおこなった結果を詳しくレポートした。また、合わせて生繭から石鹼づくりをアルマの石岡さんに指導を得たことも報告した。

今ではお母さんの片腕と言うより天蚕の研究者。より一層の活躍を期待します。おめでとう。

新製品の試作



髪飾り リース(上段)

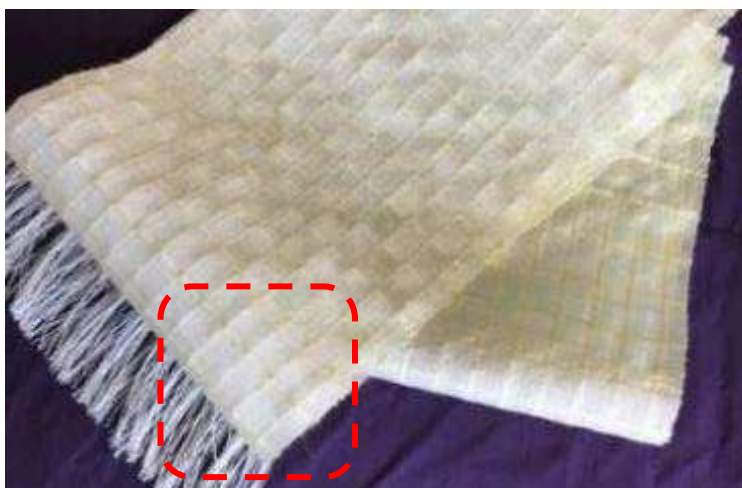
コサージュ



ブーケ(直径30cm 豪華)



巾着型い袋



井桁模様のショール。立体感を出すことを試みました。



左の赤枠部を拡大したもの。織細さが見て取れます。

トピックス

陛下19年4月30日退位

皇室会議 新元号、来年半

天皇陛下は、19年4月30日退位。皇太子が即位し、新元号「令和」が発表された。新元号は、天皇陛下の御即位の年号として、19年5月1日より使用される。新元号は、天皇陛下の御即位の年号として、19年5月1日より使用される。

天皇陛下は、19年4月30日退位。皇太子が即位し、新元号「令和」が発表された。新元号は、天皇陛下の御即位の年号として、19年5月1日より使用される。新元号は、天皇陛下の御即位の年号として、19年5月1日より使用される。

5月1日即位

羽生 連覇 小平「金」

フィギュア男子6年ぶり 日本スピード女子初

宇野 銀

女子団体「金」

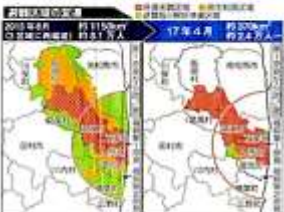
高木 菜

スピード女子初

オランダ破り五

福島民友 11月23日 ↑

避難指示 解除



帰還には課題山積

避難指示解除区域の帰還には、課題が山積みである。避難指示解除区域の帰還には、課題が山積みである。避難指示解除区域の帰還には、課題が山積みである。

生活環境 充実へ

福島民友 29年3月31日 ↑



伊達

2市長選

伊達須田氏現職破 喜多方遠藤氏初当

伊達市市長選挙で、現職の須田氏が落選し、喜多方市市長選挙で、遠藤氏が初当選した。伊達市市長選挙で、現職の須田氏が落選し、喜多方市市長選挙で、遠藤氏が初当選した。

福島民報 1月29日 ↑



福島民友 10月1日 ↑

浪江、川俣・山木屋、飯館

区域事故当初の1/3



大笹生一米沢北 開通



福島民友 11月5日 ↑

福島民友 2月3日 ↓

東北中央道山

復興・創生を



天蚕糸の 魅力紹介

糸の輝きと丈夫さから「天蚕のダイヤモンド」と称される、天蚕糸を使った商品を並べた天蚕まつりが、30日、伊達市の阿武隈急行保原駅で始まった。りょうぜん天蚕の会の主催、市観光物産交流協会の共催。会場では、ショールやハンドバッグなどのほか、名刺入れなどの小物が展示・販売されている。コサージュ作りなどの体験会も開いている。1日の時間は午前9時30分〜午後4時。問い合わせは同会事務局（電話024・586・1205）または同協会（電話024・529・7779）へ。

会員の活動スナップ



3月4日 総会に先立ち天蚕卵の袋詰め作業



総会後の懇親会 白鷹町天蚕の会の新野さん(左)と須田会長(右から2人目)



4月23日 山付け作業とネット掛け作業 ぽかぽか陽気のもとお茶の時間



↑日向寺さん、林さん、鈴木さん



5月21日 害虫駆除作業の私服 暑かった



11月25日 ネット外し作業の私服 寒かった



9月30日 天蚕まつり 真綿展示の関根さん



3月4日 総会後の懇親会 天蚕音頭でイナバウアー



7月9日 繭選別 菅野真由美さん、まひろさん



白鷹町役場の須田瞳さんと



9月2日 深山地区「のどか村」で情報交換・宿泊